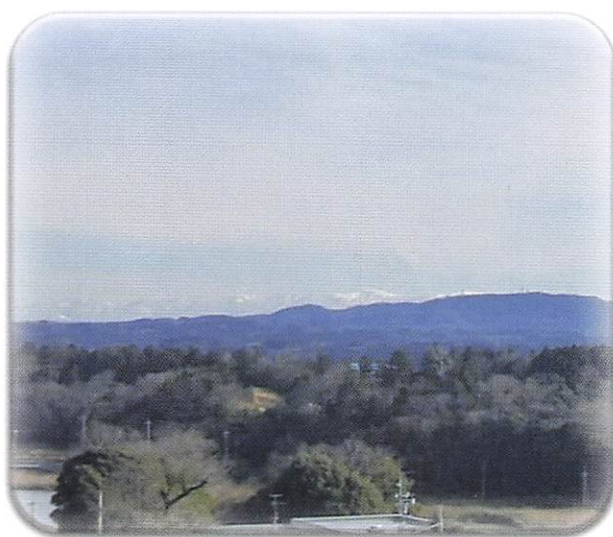


「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



あわら病院から見た白山連峰(患者さん撮影)

副看護師長会による災害対策への取り組みの紹介

2024年は能登半島地震や豪雨などの自然災害など地球温暖化の影響を強く感じさせる出来事がありました。当院では172床の病床数を有し、身体を自由に動かせない方、人工呼吸器を装着しておられる方が療養されています。

2023年度より副看護師長会では地震などの災害時に、患者さんの命を守り、医療と看護を安全に提供し続けるためにどのように行動していけば良いのか年間を通して活動をしています。そのため、看護部職員の災害時の対応力を高めるために防災マニュアルの学習会を企画開催しています。また実際の災害を想定した地震発生時のシナリオを作成し、患者さんの避難、医療機器の保全、負傷者対応などについて優先すべきことを考え行動できるために職員の即応力を養っています。

副看護師長会では病棟や部署の実践者のリーダーとして、災害発生時の対応力強化への取り組みを牽引しています。いざという時に患者さんが安心して過ごせる療養環境を整えられるよう引き続き支援していきたいと思っています。



副看護部長
岡見 敏子

血液腫瘍・がん医療

血液腫瘍内科医長 大槻 希美

前回まで終末期について述べたので外来について記載します。かかりつけからのご紹介で受診された後の検査についてお話しします。かかりつけや健康診断での血液検査を持ってこられることが多いですが、ほぼ、再度採血を行います。これは、異常を指摘された時点からの変化を確認する、異常を指摘されたときに行っていない検査項目と追加することを目的としています。次に骨髄検査です。急性白血病を疑う場合はすぐに検査を行います。血液は骨髄という骨の中で造られています。局所麻酔を行い、骨(腸骨)にボールペンの芯くらいの太さの針を刺して骨髄液を2mL程度採取します。骨髄生検は骨ごと組織を採取します。骨髄穿刺で使う

針より少し太い針を腸骨に刺し、1.5～2cm程、ボーリングの要領で組織を削りだします。骨髄穿刺と生検をセットで行うことが多いです。所要時間は15分程度でその後、30分程度安静にしてもらいます。お風呂は検査した日は入れませんが、翌日以降は可能です。日帰りで行える検査です。



高齢者の尿路感染症

老年科長 栗田 敦

尿路感染症によって入院となる高齢の患者さんが多くいます。尿路感染症から敗血症を合併して重篤な状態となることもあり、注意が必要です。尿路感染症の原因としては尿路結石(尿管結石や膀胱結石)、排尿障害(前立腺肥大症などによる器質的要因、神経因性膀胱などの膀胱機能障害)、排尿障害のためのカテーテル留置があげられます。根本的治療として尿路結石の場合は泌尿器科での結石除去が望ましいのですが、特に施設に入所されている高齢患者さんの場合は全身状態や認知症の進行により結石除去ができないことが多いです。神経因性膀胱の場合は内服治療で改善することもあります。効果なくカテーテル留置となる症例が頻

繁に認められます。治療としては抗生剤投与、補液を行います。しかし根本的治療が行えないと、尿路感染症を頻繁に繰り返すことになってしまいます。その過程で敗血症をおこしたり、薬剤耐性菌の出現により治療が困難になってしまうこともあります。



切れ目のない高齢者心不全治療を目指して

院長・循環器科 見附 保彦

最近の心不全治療の進歩には目覚ましいものがあり、様々な新規薬物治療やデバイス治療が臨床現場に導入されました。それに伴い心不全治療の新たなエビデンスが相次いで発表され、我が国をはじめ、欧米のガイドラインのアップデートも次々に進み、私たちの日常診療もまさに日進月歩となっています。患者さんにおいて、治療から社会復帰に至る一連のプロセスを統合的にケアする観点を含んだ「Patient Journey」と言葉を見かけるようになって久しくなりました。あわら病院では地域包括ケアに参加するすべての職種によりICFを用いた患者評価を行い、一人一人の患者の特

性を包括的に把握したうえで適切な診療介護方針を選択し、急性期から慢性期、入院から外来、さらに在宅へと継続性のある治療とケアを検討し、より質の高い心不全診療を提供できるようスタッフが一丸となって取り組んでいます。





地域医療連携施設のご紹介



あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

汐見 医院

昨年4月より副院長に就任いたしました。専門は循環器内科です。現在、火曜日と木曜日は院長が、それ以外の曜日は私が診療を担当しております。これまでの経験を活かし、より多くの患者さんに安心して受診していただけるよう努めてまいります。

当院では、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病を中心とした内科診療を基本に、予防接種・健康診断・各種検診・在宅診療も行っています。早期発見・早期治療が重要な生活習慣病の管理に力を入れており、患者さん一人ひとりのライフスタイルに寄り添ったサポートを心掛けています。血液検査・心電図検査・超音波検査・X線検査などの検査体制も整えております。入院や専門的な検査・治療が必要と判断された場合には、患者さんの意向を尊重しながら適切な医療機関への紹介を行っています。あわら病院には、患者さんの急な入院依頼にも快く対応していただき深く感謝申し上げます。先生方からの丁寧なご報告や連携も大変心強く、安心して患者さんをお任せできることをありがたく思っております。

今後も地域の皆様が健康で安心して暮らせるよう、丁寧で信頼される医療の提供に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

汐見 雄一郎



汐見医院

〒919-0632 あわら市春宮3丁目8-2
TEL (0776)73-0040
FAX (0776)73-1171



地域医療連携室だより ～共生社会の実現のために～

医療社会事業専門員 新谷 裕子

あわら病院では、医療的ケアが必要な神経難病など障がいのある方が療養されています。また、主に神経難病の疾患がある医療的処置・管理が必要な方を対象に、レスパイト入院の受入れを行っています。

現在、障がいがある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会として、共生社会の実現、そして、障がいのある人から『社会の中にあるバリア(障壁)を取り除くために何らかの対応が必要』との意志が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で必要かつ合理的な対応を行う、『合理的配慮』の提供を行うことが、義務づけられています。

それぞれのご家庭の事情、環境、価値観は異なります。医療機関が持つ価値観と社会的存在である患者さんご家族自身の価値観が異なる場合もあります。そ

れぞれの思いを尊重し、問題の解決に向けて継続的なかかわりを行っていくことが、ソーシャルワーカーの役割です。「医療ソーシャルワーカー行動基準ガイドライン」には、「クライアントの利益の最優先」として、「クライアントとその関係者などで利害が異なり矛盾しあう場合」は、「どこまで本人の意思を反映できるかなど、クライアントや家族・関係者などと十分に話し合い、問題の完全な解決は図れなくともその緩和を目指す努力を続ける。」とあります。病気になったことで起こるさまざまな心配事、誰に相談していいかわからないことなど、ソーシャルワーカーが窓口となり対応しています。



外 来 担 当 医 表

(令和7年2月3日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総 合	内 科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔 ^(第1・2・3・5) 見附 保彦 ^(第4)	海野 優矢
	小 児 科	川満 徹 *	川満 徹 *	川満 徹 *	福井大学医師 ^(第1・3・5) * 福岡 諒 ^(第2・4) *	川満 徹 *
専 門	リ ウ マ チ		津谷 寛		津谷 寛	
	血 液 ・ 腫 瘍			浦崎 芳正 *		大槻 希美 ^(第2・4)
	生 活 習 慣 病			鈴木 友輔 ^(第2・4)		伊藤 和広
	老 年					栗田 敦 ^(第1・3・5)
	神 経			浅野 礼 ^(第1・3・5)		
	循 環 器			見附 保彦	見附 保彦	
	外 科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整 形 外 科	柳 裕				
	眼 科				吉岡 達也 *	
	皮 膚 科		若原 真美 *			
	地 域 ケ ア	鈴木 友輔 *				
	禁 煙 外 来	見附 保彦				

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診療 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:40~11:30)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



I C Tでの薬剤師の業務について

薬剤師 福島 庸希

I C Tにて薬剤師が行っている業務について紹介したいと思います。

当院のI C Tは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されており、日々感染制御に関する様々な活動を行っています。

週に1回のカンファレンス・ラウンドで、薬剤師は入院患者の抗菌薬使用状況の抽出、I C Tメンバーへ長期使用者の周知、患者状態の確認を行っています。

また、当院は後期高齢者・重症心身障がい児(者)・神経難病など、腎機能・肝機能が低下した患者さんが大半を占めています。そういった患者さんに対して適切に薬物治療を行うために、抗菌薬の血中濃度モニタリングや患者さんの状態に合わせた抗菌薬の選択および抗菌薬の投与量・投与方法について医師に提案しています。

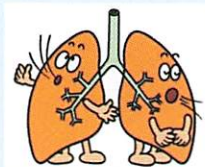
今後も、I C Tメンバーとして抗菌薬の適正使用を推進し感染拡大防止に貢献していきたいと思っています。



臨床工学技士の働きについて

主任臨床工学技士 藤寄 孝次

あわら病院に臨床工学技士が配置されてからもうすぐまる4年目を迎えようとしています。そのころから比べると人工呼吸器の種類も微増ではありますが増加しまして、人工呼吸器に対しての安全対策が一層求められるようになりました。また、排痰補助装置にかかわる機会も増えてきました。最近ではカフアシストのほか高頻度胸壁振動法(スマートベスト)を院内採用し、実施数はまだ少ないですが医療スタッフと共に排痰補助を行い、常々評価しながら効果的な排痰が行えるように努めています。冬の季節になると人工呼吸器を装着した患者さんにとって排痰に難渋することもあるかと思いますが、在宅人工呼吸器に関して何かお困りのことがあれば気軽にご相談いただければと存じます。



独立行政法人

国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1

TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉 FAX.0776-79-1261

URL <http://www.awara-hosp.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

ハピラインふくい線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017